

星座を順々に巡回する。其の巡回旅行記が他の書に類は無く、趣味と價值ある物である。博士は變光星研究の大家であるだけ特に變光星の記事は親切丁寧を極めて居る。(一八)と(一九)は水路部技師の潮汐學に造詣の深い小倉氏の著作で其の眞値は論ずる迄も無く、兩書とも中學校で地理科を教へる先生方の一讀を希望する。(二〇)は小野船長が多年航海中天に輝く各星座の美麗と莊嚴に詩想を催はし凝つて一篇の長詩となつた物、曲譜も附加され一讀否な一吟の價値は十分ある。併し或は絶版かも知れない。(二一)はハリ彗星の出現の際新聞記者たる高野氏の編する所で、早や絶版。

## 所 感

伯爵 冷泉 爲 系

見れど猶わかぬみそらのことわりを

さとせる文のいさをたかしも

## 天文と旅行

岡山商業學校教諭 水野 千里

西曆一四九二年コロンブスが西航の途磁石が眞正の北を指さぬので夜分星の位置を觀測して船の方向を定めたことは有名な話で大洋を航海する人は星によつて方位を定め安全に目的の地に達するのである又埃及、支那の如き大平野のある地方は古より天文の學問が發達して居たことは普く知られて居るが吾々が旅行して未知の地に足を踏み込んで方角がわからなくなつておまけに夜分になると困ること一方ならぬのであるが少しでも天文の知識があつて一、二等星位の見分けがつくと方角を定めることは實に容易の事である尙惑星の位置を知つて居ると一層都合のよい事が多いのである又陸軍々人にも若干の天文的知識のあるときは夜分斥候などにいつてとんでもない方にとびこんだりおまけに敵陣に迷ひこむといふやうなことはないのである。